



2月1日、ミャンマーで突然起きた軍事クーデター。東海地方に在住するミャンマーの同胞の方たちにも激震が走った。本誌2019年11月号でインタビューに応じてくれた2人の女性も4300キロ離れた故国の状況に心を痛め、「私たちは市民的不服従を貫いて、国民が軍事政権に勝つよう、日本でできることに取り組んでいます」と話す。

2人は愛知県一宮市の企業で国際事業部担当として働くスインモーさん（25）とフユコアウンさん（24）。2人とも日本で勤め始めて1～2年だが、日本語能力試験1級に合格するほどの日本語の使い手だ。中部日本ミャンマー文化経済友好協会の会員として日本とミャンマーの友好親善活動にも汗を流している。

スインモーさんは今回のクーデターについて「怒ったり、悲しんだり、言葉で表せないほどの感情でいっぱいです」と話し、フユコアウンさんも「こんな時代にクーデターを起こすなんて、軍事政権下の暗黒時代に逆戻りするののかと一瞬恐ろしい考えが脳裏をよぎりました」とそろってこの事態に心を砕く。ミャンマーでは第2次大戦後に独立してからも軍事クーデターが繰り返されたが、当時との違いはネット社会



スインモーさん（左）とフユコアウンさん

2人から読者の皆さんへ

2020年11月に行われた総選挙では、国民全員が、自分自身の意志で自由に投票した結果、アウンサンスーチーさん率いる国民民主連盟（NLD）が両院476議席中396議席を獲得し、圧勝。コロナ禍であっても、投票率が72%と、国政に対する国民の関心がいかに高かったかが、示されています。何故なら、国の政権を決める事が出来るのは、その国の国民の他にないからです。そして国民の大多数が、総選挙の結果と選挙管理委員会の手順に不平不満はなく、不正の証拠もありません。選挙で公正に選出された政府を拘束するのは国民の意志に反する行為であり、私たちが望むのも、「民意を尊重してくれること」ただ、それだけなのです。

今、私達は、海外に向けて声を上げています。現状打破するには、先進国の協力が必要不可欠だと思っているからです。国民の力だけでは、解決出来ません。今こそ国軍への適切な外圧が必要とされています。日本国民の皆様にも、ご協力頂きたい事があります。それは、正しい情報ソースから発信される事実のみを拡散して頂く事です。今世界で報道されている内容が、すべて事実とは限りません。現地では、国軍がメディアで報道されているよりも極悪非道な方法で政権を奪取しようとしています。

ミャンマーの行く末がまったく見通せない状況で、事実とは程遠い（異なる）情報が広まる事は、さらに混乱を招くことに繋がります。私達自身は、NAGOYAGONというユーチューブチャンネルを通して、日々の情報を発信していく予定です。どうか皆様にもご協力頂きたいと思います。